

建物を適正評価するERの白眉

究極のプロフェッショナル集団

(老子)に「大国を治むる方がよい。国(企業)の経営は、小鮮を煮るが如し」とも同じで、上からのお仕着という名言がある。小鮮とはせでなく、社員のやりたい小魚のことで、つまり国をこと、得意のものを引き出すと、得意のものを引き出すというやりがい志向“こ”と同じだという教えだ。小そ成長伸展の秘訣である。魚を煮るとき、やたら突き(株)シテイエボリューション回せば煮崩れてしまう。で(代表取締役・土佐林 忠史)氏は、独自のノウハウで建

物を適正評価する独立系建築コンサルタントの白眉。迅速・的確・信頼をモットーに、これまで積み上げてきた調査建物も一千棟を数えている。その着実な伸展の原動力が、建物の診断カルテとも言えるER(エンジニアリングレポート)の高い精度と真摯な取り組み姿勢だ。ERとは不動産リートやファンド運営会社などが中古のビルやマンションなどの建物を購入する際に判断材料とする文書のことである。建物の劣化・欠陥や構造耐震性、アスベスト使用の有無まで、その調査範囲は幅広い。これらの問題を主に建築上のコンプライアンス(法令遵守)の視点で調査し、建物の適正な維持管理提案をするというまさに究極のプロフェッショナル集団と言えよう。ゆえに社員も一級建築士や応急危険度判定士などの有資格者が数多く、それぞれが研鑽に努めている。個性と得意を引き出して社会に貢献する、やりがい志向“企業だ”。